

## トピックス

第6回アジア防災閣僚会議  
(バンコク)への参加

第2回世界復興会議

2015 Vol.4

# IRP Herald

## 第6回アジア防災閣僚会議(バンコク)への参加

### IRPパートナーとの協力

2014年6月22日～27日(タイ・バンコク)

#### 内閣府、ADRC、UNISDRとの協力

国際復興支援プラットフォーム(IRP)は、第6回アジア防災閣僚会議(6AMCDRR)において、2014年6月24日、防災力を構築するための機会である復興をさらに広めようとブースを設け、関連イベント「よりよい復興～ポスト兵庫行動枠組(HFA2)に向けて」を実施しました。

内閣府の齊藤馨参事官の開会挨拶に続き、様々な背景を持つ参加者がよりよい復興の事例について議論しました。災害への備えが十分ではないため、多くの政府がよりよく復興しようと取り組む中、復興への投資は、よりよく、より安全に復興する機会となり、ポスト兵庫行動枠組(HFA2)に盛り込むべきであるという意見が出ました。

質問に対し、発表者からポスト兵庫行動枠組(HFA2)においては、復興を適切に位置づけるべきとの発言がありました。

齊藤馨氏(内閣府防災普及啓発・連携担当参事官)は、「ポスト兵庫行動枠組(HFA2)においては、復興は、定量的で、明確で、分かりやすい目標を持つべきである。また復興は、より構造的・行動指向的なものであるべきであり、進行をチェックする明確な指標がなくてはならない」と述べた。



サントシュ・クマル氏(SARRC 防災センター長)より、「SARRCでは、国境を越えるほどの大規模な災害を経験したことがあまりなく、それゆえに国境を越えた復興の取組が必要である。この点で、資金不足に対応しながら、復興枠組の中で、国家的優先課題として地域の仕組みを作ることが重要である」との意見が出された。



ヴィオレタ・セヴァ氏(フィリピン・マカティ市顧問)は、「フィリピンでは、台風ハイエンの 때가 そうであったように、国と地方自治体との政治力学が復興に影響する。このことから、政府は復興を導く明確な政策、基準、ガイドライン、実施計画の重要性を認識した」と発言した。

蓮江忠男氏(日本政策投資銀行東北復興支援室次長)は、「日本では、民間部門の復興には、官連連携の視点が重要だとされる。日本政策投資銀行は、東北復興連合会議を通じて、政府と緊密に協力しながら東北復興に尽力する」と述べた。

セーバー・ホセイン・チャドリー氏(バングラディッシュ国会議員)からは、「復興プログラムを実行する際の政府・各省・各部署の役割を明確化するため、復興の重要性を政策及び立法レベルで一層主張していく必要がある」との発言があった。

#### IRP関連予定イベント

2014年9月

「世界復興会議」(アメリカ合衆国・ワシントンD.C.)

2015年1月

「IRP国際復興フォーラム2015」(神戸)

2015年3月

第3回国連防災世界会議(仙台)

#### 国際復興支援プラットフォーム(IRP)

〒651-0073

兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通  
1丁目5番2号 東館5階

Tel: 078-262-6041

Fax: 078-262-6046

info@recoveryplatform.org

編集者: 佐太留 ぐりさ

発表者、会場の参加者からの意見が述べられた後、関連イベントでは以下の提案がまとめられました。

- 中央政府、地方政府のシステムにおける復興行政機能を制度化する。
- 復興計画及び活動に対する財政的な予測可能性を確保する。
- 復興に関わる多様な主体間の調整を強化する。
- 人間の安全保障が効果的な復興に欠くことのできない基本であることを理解する。
- 復興の達成状況を測るための具体的かつ測定可能な指標を設ける。

これらの提案を受けて、IRPの今後の役割として、復興分野の協働のための世界的な仕組として活動することが挙げられました。その役割の中には、広域地方レベルの政府に対する復興に係る専門的支援の提供、持続可能な開発目標 (SDGs) 達成への貢献、科学技術災害や紛争からの復興に係る専門的支援の提供、復興の開発計画へのスムーズな取り込みを図ることなどがあります。

セッションでは最終的に、(1)各政府が復興プログラムの実現のために全般的な指針を得られるよう、HFA2に『復興』を強く位置づけるべきである、(2) 復興は(よりよい復興の機会であることから)持続可能な開発目標と連携したものでなければならない、(3)復興計画実現のための政府各部門・部署の明確な役割、また進捗度を測るための明確な方法を検討するためには、政策、法制レベルでさらに声を挙げていく必要がある、という3つの結論に達し、最後に、名執アジア防災センター所長の総括により閉会しました。

### 国際労働機関 (ILO) との協力

IRPは、アジア防災閣僚会議に続き、7月27日にバンコク・国連コンベンションセンターにおいて、ILOアジア・太平洋事務所が開催したワークショップ「自然災害後の雇用復興：東日本大震災の教訓」に参加しました。

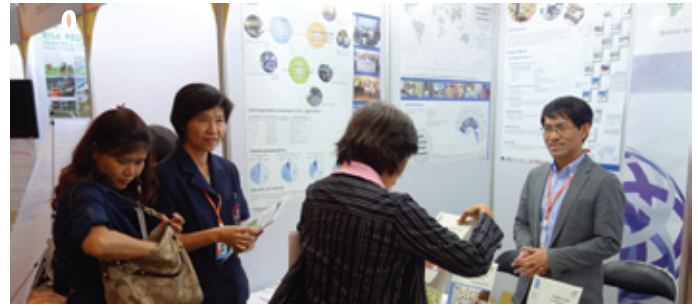


ワークショップでは、防災及び災害後の復興における雇用と社会保障との関連性についての啓発、東日本大震災の復興過程で得られた経験や教訓、優良事例の共有、アジア・太平洋地域における雇用に着目した防災・復興の知識強化のための戦略について議論が行われました。

ILOは、IRPのメンバーとして、日本で行った研究成果を共有することによって自然災害で被災した国々の生活復興を促進する際に必要な示唆を提供しました。ワークショップ参加者は、アジア・太平洋地域の政府、人権団体、開発援助組織から選ばれた雇用、政策、社会保障、防災の専門家および実務者でした。

### IRPのブース出展DRR

展示ブースでは、ガイダンスノート、ニュースレター、各種報告書、IRPメンバー機関の冊子等を展示・配布し、また、IRPの活動内容を紹介するポスターを展示し、多くの会議参加者の注目を得ました。



事務局として、各種資料の幅広い配布とともに、会議参加機関との関係構築に努め、特に、アジア工科大学院(ヴィネッタ・タパ 防災減災上級プログラム・オフィサー)と協力関係を構築する機会となりました。

## 世界復興会議 (WRC2) におけるIRP分科会 2014年9月10-12日、ワシントンD.C.

### 世界銀行との協力

#### 分科会1:

「より効果的・効率的な災害復興を目指して  
～HFA2における「復興」の位置付け～」

9月10日16:00~17:30

目的: いかにか効率的・効果的な復興を実現させるのか、様々な角度から議論し、HFA2に「復興」を明確に位置づけるための重要な提言を行う。

#### 分科会2:

「インド洋津波から10年～津波からの復興の教訓を  
HFA2に生かす～」

9月11日16:00~17:30

目的: 2004年のインド洋津波の経験や教訓を、コミュニティや復興政策・制度の観点から考察するとともに、復興計画の様々なモデルを取り上げ、それらがいかにか復興に影響を与えたかを議論する。

#### 分科会3:

「復興における民間セクターの役割～復興に  
おける官民一体となった取組～」

9月12日11:00~12:30

目的: 復興における官民連携に係る知識ギャップ及び障壁について考える。

- ・ 防災・復興への民間セクターの関与について、いかに取り組み実現し、支えるか
- ・ 民間セクターの防災・復興に対する投資・取組について

**World Reconstruction Conference 2**  
Washington, D.C. • September 10-12, 2014  
Resilient Recovery—an imperative for sustainable development

For more information visit: <https://www.gfdrr.org/node/28248>